

最高学年としての姿 授業後の感想

- 集会の司会で、いつもはずかしくて、自分でもあんまり納得しなかったけど、かっこいいと言ってくれる子がいて、よく見てくれているから、これからは恥ずかしがらずに一生懸命がんばって、みんなが楽しんでもくれる集会を作りたい。
- いつのまにか役に立っていたから、うれしい。5年でがんばった行進が役に立ってよかった。
- もうちょいがんばれのところを見て、あいさつの時とか、あんまり声を出していないから、もうちょっとがんばらないと、と思った。最高学年だからがんばりたい。
- 「かっこいいな」のやつをみて、いろんなことを思っているんだなあと思った。「もうちょいがんばれ」の方は、先生たちはよく見ているなあと思った。
- こんなにいっぱいあったから、6年生になって良かったなあと思いました。
- 行進がキレイとか、そんなことまで細かく見ているんだなあと思いました。言葉づかいはたしかにちょっと悪いかもと思いました。「もうちょいがんばれ」をクラスみんなで直したい。
- あいさつの声が小さいなど、すぐ直せるから直したい。
- 他の学年の人が「かっこいい」「すごい」ことをたくさん見つけてくれてうれしい。「もうちょっと」のところは、これから直そうと思った。
- 自分たちのいいところを見ていてくれることがわかって、うれしいな—と思った。うらは、自分たちのもう少しを見ていてくれて、なおそうと思った。
- 6年生としてあたりまえのこと（ボールをける、言葉づかい）ができていないから、それができないことはないから、それが6年生としての1つの課題だと思う。それができればカンペキ。
- 注意されたところはちょっとでもなおしていきたい。「かっこいいな」と思った姿を見て、こっちの方が多くて安心した。「もうちょいがんばれは、自分ができていないところが多かった。
- 悪いところは、ほとんどぼくにあてはまりました。でも、いいところがいっぱい書いてあったので、ちょっと安心しました。
- いろんな人がいい所とかをたくさん書いていてうれしい。「もうちょっと」のところは、がんばりたい。〇〇さんは『いい6年生になりたい』と目標を授業で話していて、とてもいいと思った。
- ぼくは、みんなの役に立てると思った。悪い所もあるけど、がんばってなおす。
- いろいろな人が、いいところを見てくれている。「もうちょい」の声をもっと大きくしようと思った。
- いいところと同じに悪い所もあって、低学年のいい手本になる6年になりたい。自分たちがしていることを、低学年が見て、手本にしているんだと思った。
- 年下の子は、6年生のことをよく見とるんやなあと思った。もっといいところ見せなあ

かなと思った。

- 小さなことでも、他の人がそれを見ていて、ほめてくれていて、素直にうれしい。これを聞いたことで、気をつけようと思ったことや、がんばろうと思ったことがたくさんあった。